

アジアの友

The Asia-no Tomo

No. 546

留学生の入学経路と卒業後進路の分析
ー外国人留学生の入学前と卒業後を明らかにするー

新星学寮での生活 タイ人寮生に聞く



ABK 日本語教育勉強会のお知らせ（オンライン開催）

現役の教師（および教師を目指す人）が、互いに学び合う勉強会です。

日々の授業のために、ヒントを見つけましょう！

7月17日（土） ワークショップ

「教科書もない！お任せ授業を担当したら 素材を見つける、問題を作る」

学校や機関も、日本語教師も、学習者に学習機会を提供し続けるために努力を重ねています。この回は、模擬授業でも大人気の関根美樹先生をお招きし、コロナ禍という非常事態の中で、何を、どう使い、学びを継続させてきたのか、ご奮闘の様子を紹介していただき、参加者みんなで情報やアイデアを共有します。

● 7月17日（土）9時30分～11時30分（情報交流会：～12時30分 自由参加）

● 講師：関根 美樹（フリーランス日本語講師）

● 参加費：2,000円

● お申込み用リンク：<https://forms.gle/n6Eb4zzGtLgekyFCA>



7月24日（土） はじめてのジャムボード

「ICT ツールのジャムボードにみんなで触ってみる会」

ICT ツールの「ジャムボード」。使ったことがない方や、見たこともない方でも安心して参加できるように、「それ、何？」から始め、みんなで触ってみながら、どんな授業で役立つかを考えてみましょう。初級、中級、上級クラスでの、それぞれの実践例の紹介もあります。

● 7月24日（土）9時30分～11時30分（情報交流会：～12時30分 自由参加）

● 講師：堀部 文奈（早稲田 EDU 日本語学校）

● 参加費：2,000円

● お申込み用リンク：<https://forms.gle/Re8Ty6SjndzKzivs8>



7月31日（土） 授業実践の報告と活動体験

「選択科目“上級日本語”におけるビジターを迎えての口頭表現活動」

* ビジター：教師と学生以外の授業参加者

日本語ネイティブの方をビジターとしてクラスに迎え、週1回、8週間にわたり、「コミュニケーション」を中心としたさまざまな活動を行いました。この回では、実際に授業で行った10数種の活動を紹介し、いくつかは実際に体験していただきます。オンライン授業での実践を報告しますが、ほとんどは対面授業でも行うことができる活動です。

● 7月31日（土）9時30分～11時30分（情報交流会：～12時30分 自由参加）

● 講師：亀山 稔史（ABK 学館日本語学校）

● 参加費：2,000円

● お申込み用リンク：<https://forms.gle/tLbKvMrzuSEa5Fis6>



お問い合わせ：メール info@abk.ac.jp 件名「勉強会問い合わせ」

電話 03-6912-0756 担当：亀山（授業中の場合があります）

アジアの友

2021年4-6月号 第546号

目次

	巻頭
2	留学生の入学経路と卒業後進路の分析 外国人留学生の入学前と卒業後を明らかにする
	新星学寮での生活
18	③ 新星学寮は小さな実社会 ～タイ人寮生に聞く ・ ジリヤシン ジャリヤーさん ・ コンクロントーン タットポーンさん
	コラム 泰日工業大学奮闘記
28	④ 「TNI 国際プログラムの高塚美穂さん：小学校からタイ留学！？」
	私の意見私の体験
32	「日本留学成功の鍵は友達作り」 エヴァン クリスディティヤワン ～インドネシア
	知友会通信
35	奨学金情報
	Information
35	「第4回 教職員のための外国人留学生就職支援研修会」のご案内
	MEMBERS
36	会費とご寄附のご報告

<表紙> タイ南部サトゥーン県の沖合いの島

Photo by Shinji FUJII

留学生の入学経路と卒業後進路の分析

－外国人留学生の入学前と卒業後を明らかにする－

日本学生支援機構（JASSO）のウェブマガジン『留学交流』3月号に「留学生 30 万人計画の達成とその実情をさぐる：留学生の入学経路と卒業後進路に関する一考察」という特別論考が載せられた。同論考は、各教育段階間の学生移動状況を、入学経路から卒業後まで実数で明らかにした点で、画期的な研究であると言うことができよう。

今号では、著者である二子石優氏（ふたごいしゆう一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程）にその要旨を聞くと同時に、国際教育交流を専門とされる一橋大学太田浩教授に本分析データのポイントについてコメントを伺った。

聞き手：アジア学生文化協会理事長 白石勝己

1 問題意識の出発点

白石： まず、二子石さんの自己紹介と今回の調査に取り組まれた経緯をお聞きしたいと思います。

二子石： 大学時代に学生寮で外国人留学生と生活を共にしていました。その寮に住むタイ人の友だちに、大学の授業のボランティアに参加しないかと誘われ、そこで日本語教師という職を知りました。それがきっかけで日本語教師を志し、日本語教師養成講座に通い資格を取りました。大学卒業後にベトナム・ホーチミン市のドンズー日本語学校に赴任し、日本語教師としてのキャリアを開始しました。ドンズーに2年間勤めたあと帰国し、国内の日本語学校で5年間日本語教師として勤めました。国内外での教育経験から、人の移動とそれを仲介する語学学校の役割に興味を持ち、

2015年に一橋大学大学院言語社会研究科へと進学、現在は、法政大学で非常勤講師として日本語を教えながら、博士後期課程に在籍し、日本国内の日本語学校の機能について研究を進めています。

今回の調査は、令和元年度（2019年度）学生支援の推進に資する調査研究事業（JASSO リサーチ）¹の研究の一環で、当該資料の開示請求をしました。元々は大学学部への入学経路を知りたかったのですが、分析を進めていくうちに、修士、専修学校（専門課程）の入学経路についての分析も必須であることが分かり、各教育段階の入学経路についても開示請求をした結果、今回の論考につながりました。

白石： 留学生の入学経路、卒業後の進路については留学生政策を検証するうえで必



二子石優氏

須のデータだと思いますが、これまで公表されてこなかったのは、何か理由があるのでしょうか。

二子石： 推測ですが、これまででは、生データを公表しても一般性がなく、ある程度分

析角度をつけて公表する必要があると考えていたのではないのでしょうか。そういった意味で、今回データを提供していただき、分析できたことは意義があったと思います。

太田： 留学生の卒業後の進路に関する統計は公開されていたのですが、入進学直前にどこに在籍していたかということは公開されていませんでした。2018年より「JASSO リサーチ」が始まり、それに応募することでJASSOが収集している多くの留学生に関連するデータから、当該研究に必要なものが可能な限り提供されるようになりました。今回、二子石さんがJASSOから日本留学の経路にかかわるデータの提供を受け、詳細に分析したことで明らかになったことは非常に大きな意義があると思います。

2 留学生はどこから大学、大学院、専門学校に入学したのか

① 大学院への入学経路

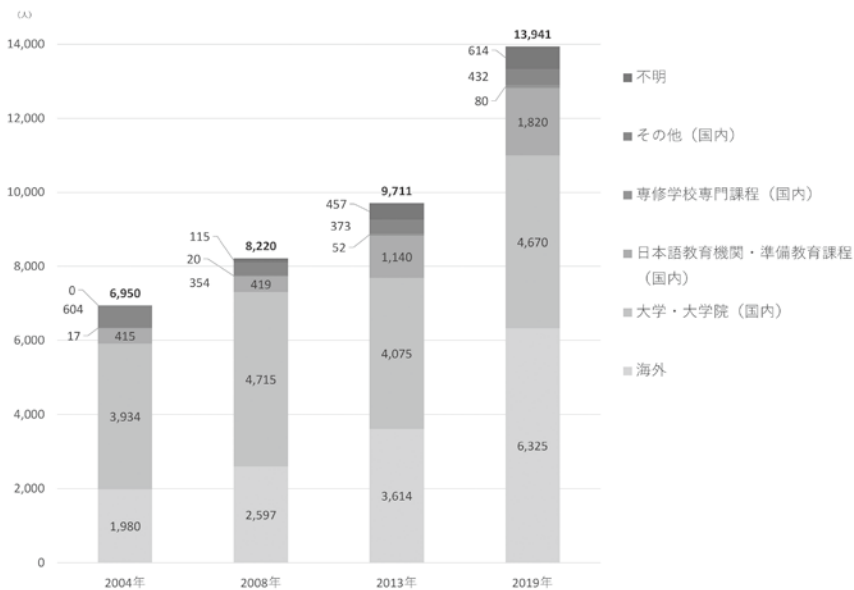
白石： それでは、二子石さんが分析したデータについて、「直前の在籍機関」からお伺いしたいと思います。『留学交流』にすでに書かれた内容と重複するところがあるかもしれませんが、お許してください。また、ご存じの通り2020年から今まで続くコロナ禍の影響が極めて大きいわけですが、この点については最後にまとめてお話ししたいと思っています。

まず大学院修士課程への入学では、2004年から2019年までで総数が倍増しています。しかしその経路を見ると、

2004年は約半数強が日本の大学からの進学で、海外からの直接入学が3割でしたが、2019年になるとその割合がほぼ逆転し海外からの直接入学が半数近くになっています。これは、日本の大学が、海外からのプロモーションを積極的に行った結果とみてよいのでしょうか。

二子石： 残念ながら、答えは「いいえ」ではないのでしょうか。海外からの受入れが進んだ理由は、受け入れ側の方策よりも、送り出し側からの影響を受けた結果だと考えています。修士課程全体の68.7%を占めている中国の高等教育進学率の上昇、大学院進学率の上昇²が影響しているだろう

(図表 1) 修士1年生の直前の在籍機関



	2004年		2008年		2013年		2019年		04年⇒19年 増加率
不明	0	0	115	1%	457	5%	614	4%	-
その他 (国内)	604	9%	354	4%	373	4%	432	3%	-28%
専修学校専門課程 (国内)	17	0%	20	0%	52	1%	80	1%	371%
日本語教育機関・準備教育課程 (国内)	415	6%	419	5%	1,140	12%	1,820	13%	339%
大学・大学院 (国内)	3,934	57%	4,715	57%	4,075	42%	4,670	33%	19%
海外	1,980	28%	2,597	32%	3,614	37%	6,325	45%	219%
合計	6,950	100%	8,220	100%	9,711	100%	13,941	100%	101%

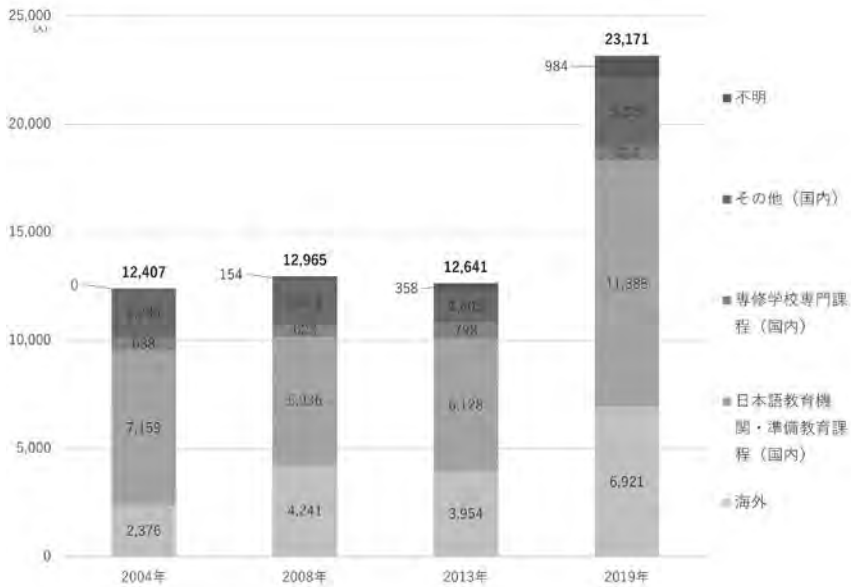
出典：日本学生支援機構提供資料「入進学直前在籍機関からの外国人留学生入進学者数」より二子石氏作成

と推測しています。日本留学者数は中国側から見たら小さい割合ですが、日本から見たら大きなインパクトになる典型的な例かと思っています。中国で学士課程を終えて直接もしくは日本語教育機関を経て、日本の大学院（修士課程）に進学する経路が形成されていることがうかがえます。さらに、中国国内の日本語教育のレベルも高くなったことも影響していると思います。

太田： 中国の修士課程は一般的に3年

間ですが、日本だと2年間ですから、日本語学校に1年通っても合計3年間で中国と同じになります。それなら留学したほうが良いと思う人も多いのではないのでしょうか。以前、日本の修士課程に在籍する留学生は、日本の学士課程から進学した人の方が海外からの直接入学の倍ぐらいだったのですが、現在は、海外から直接入学する人のほうが多くなっています。この背景として、理工系で英語による課程が増えたこ

(図表2) 大学(学部)1年生の直前の在籍機関



	2004 年		2008 年		2013 年		2019 年		04 年⇒19 年 増加率
不明	0	0%	154	1%	358	3%	984	4%	-
その他(国内)	2,234	18%	2,011	16%	1,403	11%	3,225	14%	44%
専修学校専門課程(国内)	638	5%	623	5%	798	6%	656	3%	3%
日本語教育機関・準備教育課程(国内)	7,159	58%	5,936	46%	6,128	48%	11,385	49%	59%
海外	2,376	19%	4,241	33%	3,954	31%	6,921	30%	191%
合計	12,407	100%	12,965	100%	12,641	100%	23,171	100%	87%

出典：日本学生支援機構提供資料「入進学直前在籍機関からの外国人留学生入学者数」より二子石氏作成

とで、言語的障壁が低くなり、漢字圏を越えて留学生を募集できるようになったことが挙げられます。また、最近は中国人向けの進学予備校が増え、1年間ほど日本語学校に通いながら、同時にそのような進学予備校でも学ぶ裕福な中国人学生が増えました。進学予備校では、日本の大学院入試が詳細にわたって研究され、徹底的な受験指導がされています。しかし、そのような受験対策が行われていることを理解している

大学院の教員は少ないと思います。こうした予備校を経た大学院進学が新たなルートになっています。

② 大学学部への入学経路

白石： 次に大学学部ですが、これも2004年から2019年は倍増しています。しかし直前の在籍機関を割合で見ると、日本語教育機関が約50%前後、海外からの直接



太田浩 一橋大学教授

入学が30%前後で、ずっと変化がありません。これについてはどのように考えればよいのでしょうか。割合は変わらないまま数は増えているわけですが。

二子石： 大学学部進学において日本語教育機関を経由するルートは「10万人計画」時代から最も典型的でしたが、「30万人計画」達成時においてもその重要性は変わらなかったと考えています。政策的には渡日前入学を増やそうとしたのですが、割合を変えるほどのインパクトはなかったということですね。

太田： 30万人計画を通して大学院では英語による課程が大きく増加しましたが、学士課程ではそれほど増えていません。つまり、学士課程では英語トラックのキャパシティが未だ限定的なことから、日本語学校経由での進学というルートが主流という状況は変わらなかったのだと思います。

二子石： さらに、気になる点が、2016年ごろから学部留学生の数が増えている³のですが、この学生たちがどんな大学に進学し

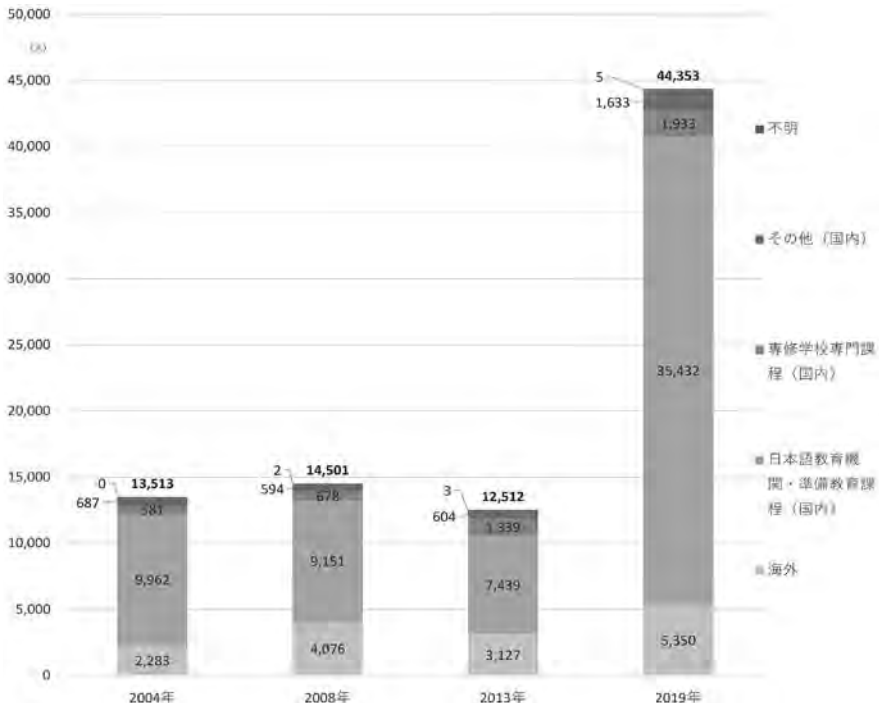
たかです。2015年以降は大学における定員管理の厳格化で都市圏の私大は軒並み留学生の受入れ数を引き締め、難易度が上がっているのが現状です。ですから、地方大学、小規模大学に進学したのではないかと推測しているのですが、決定的なデータが得られていません。

太田： 大都市の大学の学士課程は定員管理の厳格化で留学生を受入れる余地が狭くなっており、溢れた進学希望者が関東周辺の大学や地方に流れています。また、もとも国立大学の学士課程では留学生を受入れられる枠が非常に小さいのですが、今後、留学生を定員外で受入れられるようにするという動きがあります。優秀な学生を獲得するというのが前提で、授業料の自由化もセットで検討されています⁴。東北大学総長の 大野先生が文科省の会議や教育再生実行会議でこれを強く提唱されています。大野先生は、国立大学の現状の定員管理では「優秀な留学生を十分に受入れられない」ということを嘆いています。

白石： 確かに本協会の準備教育課程の日本語コースの進路指導でも、首都圏の私大の難易度が非常に上がっていると実感しているようです。ご指摘のように以前のレベルから一段下げて受験先を選択するようになっている。

良いか悪いかは別として、国立大学が留学生を定員に縛られないように外枠とし、授業料を自由化する（高めに設定する？）という発想は、これまでの日本の平等公平を旨とする考え方にはなかったものですね。

(図表3) 専修学校(専門課程)の直前の在籍機関



	2004年		2008年		2013年		2019年		04年⇒19年 増加率
不明	0	0%	2	0%	3	0%	5	0%	-
その他(国内)	687	5%	594	4%	604	5%	1,633	4%	138%
専修学校専門課程(国内)	581	4%	678	5%	1,339	11%	1,933	4%	233%
日本語教育機関・準備教育課程(国内)	9,962	74%	9,151	63%	7,439	59%	35,432	80%	256%
海外	2,283	17%	4,076	28%	3,127	25%	5,350	12%	134%
合計	13,513	100%	14,501	100%	12,512	100%	44,353	100%	228%

出典：日本学生支援機構提供資料「入進学直前在籍機関からの外国人留学生入進学者数」より二子石氏作成

③ 専門学校への入学経路

白石： 専修学校専門課程（以下専門学校）は1万人台から4万人台へと3倍～4倍に増加していますが、その大部分80%が日本語学校から進学しているということがわかります。この専門学校での留学生の増

加は日本語学校でベトナム、ネパールの学生の急増に対応している、と考えられますが、国籍別のデータは把握されているのでしょうか。

二子石： いいえ。そのため、全数調査ではないものの、文科省委託事業（職業教育・キャリア教育財団）報告書⁵から国別デー

タを参照しました。また、この後3-⑤「日本語学校修了後の経路」では、日本語教育振興協会の調査データを使って漢字圏、非

漢字圏に分けた分析をしています。そこでは非漢字圏の留学生の進路は9割近くが専門学校へ進学しているとされています。

3 留学生は大学や学校を修了した後、どこへ進んだのか

① データ年の取り方の違い

白石： 前節2の「直前の在籍機関」では2004、2008、2013、2019年のデータをまとめています。一方「修了者の進路状況」では2007年、2012年、2018年のデータを使っていますが、理由を教えてください。

二子石： 2007年度、2012年度、2018年度中にそれぞれの課程を卒業もしくは修了した学生の日本国内進学者が、修士、大学(学部)、専修学校の1年生へと進学したことになります。例えば、2007年度進路状況(2008年3月卒業)で集計された留学生は2008年5月1日現在、直前の在籍機関として集計されることになります。ただし、外国人留学生進学状況調査は2004年度までしかデータが公開されていないため、2003年度は使えませんでした。

② 大学院修了後の進路

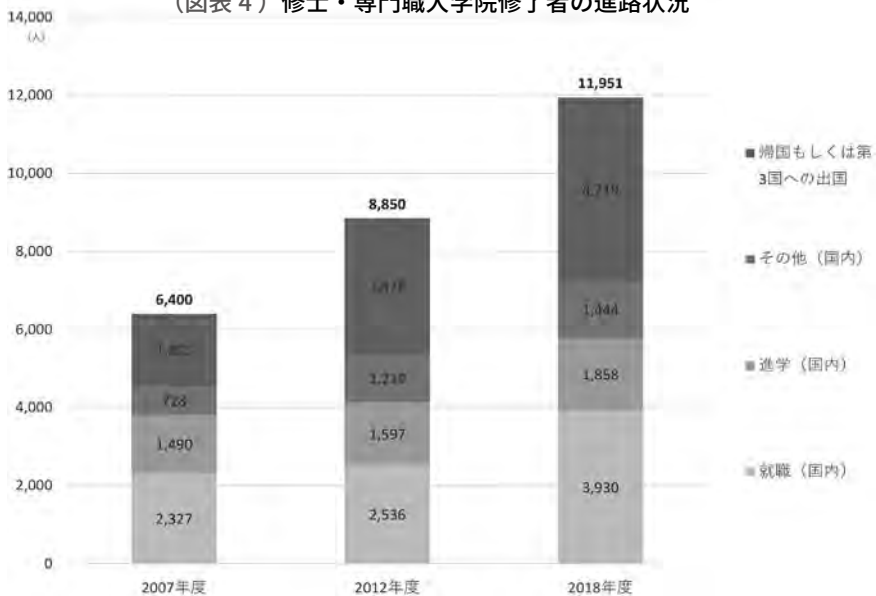
白石： 前節2-①のデータで大学院への入学者が倍増していますので、当然ながら修了者も6千人から1万2千人へと倍増しています。その進路の割合を見ると2007年では帰国、第3国への出国が3割だったのが、2018年では4割へと増えて

います。一方日本国内での就職は、数こそ増えていますが、その割合は減少傾向です。これをどのようにお考えでしょうか。

二子石： 完全に推測ですが、院卒留学生(その7割は中国)と日本企業とのミスマッチが生じているのではないのでしょうか。中国出身の大学院卒者にとっては、中国国内での就職の方が魅力的かつ、日本留学の経験が活かれます。一方で、日本国内の企業では、専門学校卒業生や大学学部卒業生に比べて院卒留学生の需要があまりないのかもしれない。

太田： ある大学のキャリアセンターの職員から修士課程のみ日本に留学した留学生は、学士課程から留学した者に比べて日本での就職が困難であるという話を聞きました。その理由として、まず修士課程からの留学生は一般的に学士課程からの留学生に比べて日本語力が低いということ。それから修士課程の場合、1年生の秋冬から就職活動を始めなければなりません、このことを理解できていない留学生が多く、2年生の冬になり修士論文の目途がついたところで、就職したいと相談に来る者もいるそうです。一方、理工系院卒の採用需要は高いのですが、日本の大学の8割が私立である影響もあり、文系のキャパシティが圧

(図表4) 修士・専門職大学院修了者の進路状況



	2007 年度		2012 年度		2018 年度		07 → 18 増加率
帰国もしくは第3国への出国	1,855	29%	3,478	39%	4,719	39%	154%
その他(国内)	728	11%	1,239	14%	1,444	12%	98%
進学(国内)	1,490	23%	1,597	18%	1,858	16%	25%
就職(国内)	2,327	36%	2,536	29%	3,930	33%	69%
合計	6,400	100%	8,850	100%	11,951	100%	87%

出典：日本学生支援機構提供資料「外国人留学生進路状況調査結果」各年より二子石氏作成

倒的に大きく、理工系留学生の数は多くありません。

日本では、学士課程卒業者の98%が就職できるという状況にありますから、文系の大学院に進学する日本人学生は少なく、私の大学でも大学院生の3割は留学生です。もはや留学生なしでは文系の大学院は成り立たないと言えるでしょう。しかし、留学生が修士課程に望んでいる労働市場での価値を高めたいということと、研究者養成という大学院の設置目的との間のギャッ

ブが大きいことは問題です。

二子石： 太田先生の話は日本の新卒一括採用ということとも大きく関わってきています。修士課程の2年間というのは、日本の就職活動のスケジュールと合わず、そこがこの帰国に繋がっていると思います。どんなに日本政府が留学生対象の就職支援策を行っても、大学院とは時期がずれてしまっているので、その点は可哀想だなと思います。ただ、私は法政大学で日本語を教えていて、中国人学生が大勢いるのですが、



白石アジア学生文化協会理事長

やはり彼らに聞くと、大学院に行くのは当たり前だと言います。中国では周りのみんなが大学院に行くので、大学院に行かないと就職できないと言うのです。

太田： 日本の文系の修士課程に留学する中国人の増加は、より良い就職のためにはより高い学位が必要という、中国だけでなく世界的な潮流が背景にあるのですが、日本の修士課程は未だに研究者養成を目的としているところが多いためミスマッチが起きている。ある大学院から「留学生が大幅に増えたのだが、彼らの意識があまりにも昔と変わってしまって戸惑っている」という相談がありました。そこで文系大学院の各研究科が連携して、修了後の就職を見据えたコースワークを主体としたトラックを別に作り、企業の協力も得てインターシップをカリキュラムに入れる。そこでは、データサイエンスや調査、統計の手法など高度な職業人として必要なスキルがコア科目として学べるようにするということを提案しました。このようなトラックができれば他の大学院とも差別化ができ、優秀な留

学生を獲得できる可能性が高いと思うのですが、大学院側としては、長年にわたる縦割りの伝統から「言うは易く行うは難し」という反応でした。

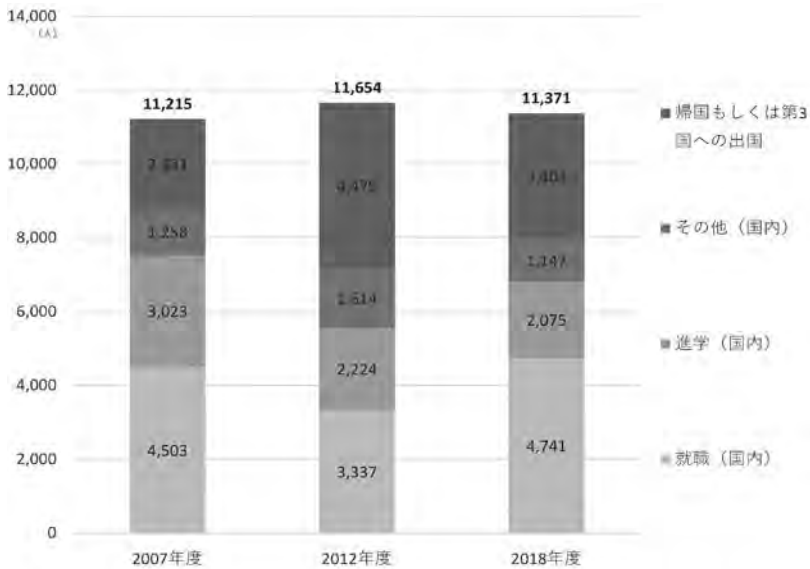
白石： それでは修士課程で専門の研究はしっかりやって学位を取ってもらい、プラス1年で社会人基礎力のような資格が取れるコース、たとえば Business Skills Training Program (Certificate Program) のような形を考えてもいいかもしれませんね。欲張りかもしれませんが、日本国内のみならず国際的に通用するようなプログラムであればなおいい。授業料も柔軟に対応できるようになるということです。そのコースに在籍しながら就活をおこない、面接のときには「修士学位を取得した後、現在ビジネスプログラムを取っていて来年4月にビジネス基礎資格取得予定です」と言える。企業側からはビジネス日本語、キャリア教育、インターンシップなど仕事をするための知識、経験を習得していることが見えるというような。

③ 大学学部修了後の進路

白石： データでは大学学部の卒業者は2007年、2012年、2018年とほとんど同じ数で割合の変化もあまりありません。これは、どうしてでしょう。

二子石： 2018年度卒業生は、2012、2013年頃に日本語学校に入って、2013、2014年頃大学に入り卒業した人です。2011年の東日本大震災と福島原発事故の影響で中国からまだ人が戻ってきていない

(図表5) 大学(学部) 修了者の進路状況



	2007 年度		2012 年度		2018 年度		07 → 18 増加率
帰国もしくは第3 国への出国	2,431	22%	4,479	38%	3,408	29%	40%
その他 (国内)	1,258	11%	1,614	14%	1,147	10%	-9%
進学 (国内)	3,023	27%	2,224	19%	2,075	18%	-31%
就職 (国内)	4,503	40%	3,337	29%	4,741	41%	5%
合計	11,215	100%	11,654	100%	11,371	98%	1%

出典：日本学生支援機構提供資料「外国人留学生進路状況調査結果」各年より二子石氏作成

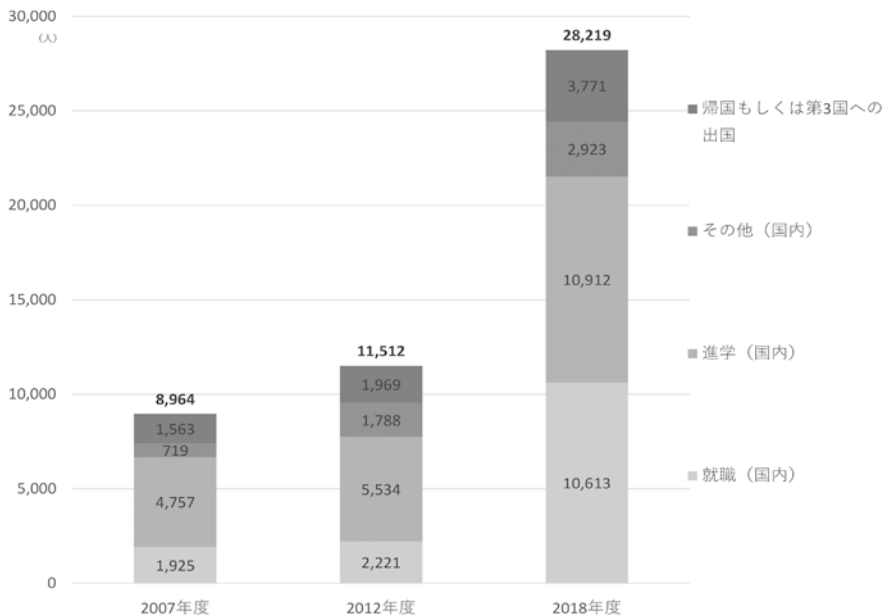
時ですね。ベトナム、ネパールへの日本語学校のプロモーションも始まったばかりです。学部留学生の急増は2016、2017年ごろから生じています。「30万人計画」達成前、5年ほどで一気に学生数が増えています。

白石： 学部卒業者が国内で就職する割合はずっと4割程度で変化がありません。実は国内進学者を除くと、50%が日本国内で就職していることになり、これは少ない数字ではないと思いますが、いかがでしょう。

二子石： その通りだと思います。2019

年度学校基本調査によると学士課程在籍の外国人留学生67,949人中、半数以上の43,260人(63.7%)がいわゆる文系の人文科学・社会科学を専攻しています。また日本の雇用慣習において、企業は文系について大学院修了者よりも大学(学部)卒業者をより積極的に採用する傾向があると言われています。さらに、「留学生就職促進プログラム」のような政府による留学生に対する就職支援の後押しがあり、大学学部卒業後の進路として国内の大学院進学より

(図表6) 専修学校(専門課程) 修了者の進路状況



	2007 年度		2012 年度		2018 年度		07 → 18 増加率
帰国もしくは第3 国への出国	1,563	17%	1,969	17%	3,771	13%	141%
その他(国内)	719	8%	1,788	16%	2,923	10%	307%
進学(国内)	4,757	53%	5,534	48%	10,912	39%	129%
就職(国内)	1,925	21%	2,221	19%	10,613	38%	451%
合計	8,964	100%	11,512	100%	28,219	100%	215%

出典：日本学生支援機構提供資料「外国人留学生進路状況調査結果」各年より二子石氏作成

も、国内就職が一つのトレンドとなったのではないかと推測されます。一方で大学院に進学したら就職が難しくなるということもあるのではないのでしょうか。

太田： 大学の学士課程卒業生の98%が就職していると言いましたが、この割合は大学院進学者を外したものです。これはあくまで就職を希望する人のうちの98%が就職できたということです。留学生の場合、進学する人が2割弱いて、帰国・第3

国への出国が3割おり、それらの人たちも含めて卒業生全体のうちで国内就職者の割合が4割という数値をもって、この割合をもっと上げる必要があるというのはどうかと思います。留学生の場合、就職希望者のうち半分程度が実際に就職できていると言われていますが、この点についてもっと精緻なデータが必要だと思います。

白石： 留学生の場合は国内での就職と同時に、母国での就職・進学、第3国への

進学という選択肢もあり、それぞれ比較しながら選ぶということだと、調査項目の設定に工夫が必要となりますね。

④ 専門学校の修了者の進路

白石： 専門学校は、前節2-③で示されたように入学者が3倍なっていますので、修了者も同じように3倍に増加しています。ここで特徴的なのは国内就職が20%から40%近くまで増えていることです。その理由はどこにあるのでしょうか。

二子石： 2011年7月の法務省の省令改正⁶で、専門学校生も専門士の資格が得られれば就職ができるようになったからだと思います。しかし、専門学校で勉強した分野での就職に限られており、専攻に関係なく幅広く就職が認められる傾向にある大学卒業者より、就職可能な範囲の制限は強いといえます。また、職業教育・キャリア教育財団報告書からも、非漢字圏出身者は専門学校修了後、日本に残る割合が高いことがうかがえます。ここから、非漢字圏学生と日本企業、特にインバウンド系、技術系企業とのニーズが一致したのではないのでしょうか。

白石： 専門学校修了者のうち国内進学者を除いて、就職率を出してみると6割が日本国内で就職していることとなります。制限があるにもかかわらず、大学学部より多い割合で就職していることとなり、専門性の制限が緩和されれば、さらに専門学校卒業後に日本で就職する留学生は増えるのではないのでしょうか。

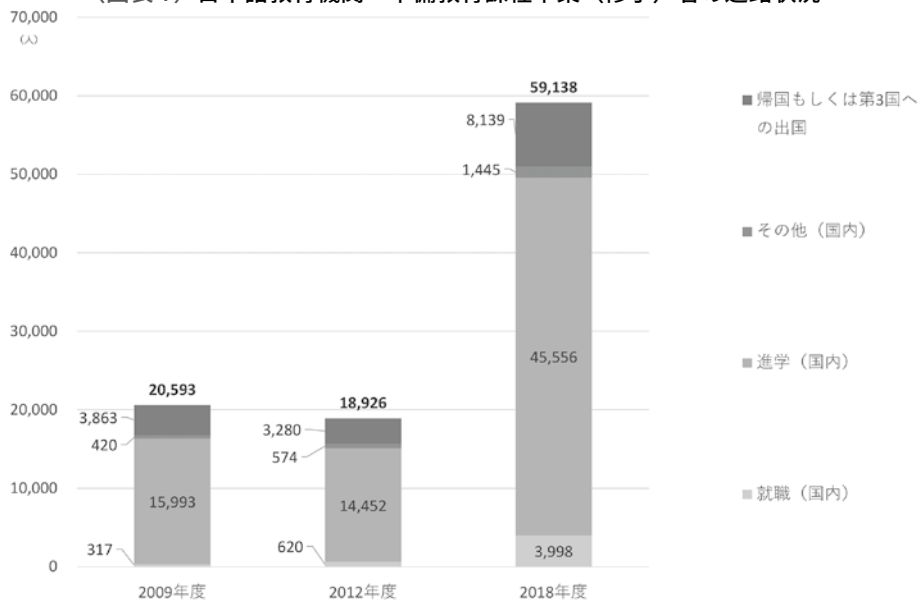
二子石： そうですね、例えば、特定活動46号（日本語能力試験N1保持の大学卒業者は飲食店、小売店のサービス業などの現場労働への就職が可能となった）が専門学校にも適用されれば、一気に就職率は加速すると思います。ただし、専門学校から専門性の制限を外せば、専門学校の存在意義が問われるのではないのでしょうか。この推測が成り立つ時点で、日本社会は単純（非熟練）労働力に対する需要が非常に高く、外国人労働者に代替してほしいという現実が見えてきます。たとえば専門学校と就労資格の関連付けがなされ、特定技能での技能試験が免除されるなどの措置が取られるようになれば、ビザ制度上も明確になり、就職はさらに促進されると思われます。

⑤ 日本語学校修了後の進路

白石： 日本語学校生は2009年の2万人から6万人へと3倍になりました。この間の留学生の国籍が中国を中心に韓国、台湾の東アジア中心の受入れから、ベトナム、ネパールにシフトし、急拡大したことが原因とされています。日本語学校生のみを抽出した国籍別留学生数のデータはあるのでしょうか？

二子石： 先日、高等教育学会での発表資料では日振協のデータを参照し図表8を作成しました。これによれば、漢字圏の留学生の73%が進学し、そのうちの6割弱が大学、大学院に進学しています。専門学校は4割程度です。一方非漢字圏の留学生は72%が進学していますが、そのうちの

(図表 7) 日本語教育機関・準備教育課程卒業（修了）者の進路状況



	2009 年度		2012 年度		2018 年度		07 → 18 増加率
帰国もしくは第 3 国への出国	3,863	19%	3,280	17%	8,139	14%	111%
その他（国内）	420	2%	574	3%	1,445	2%	244%
進学（国内）	15,993	78%	14,452	76%	45,556	77%	185%
就職（国内）	317	2%	620	3%	3,998	7%	1161%
合計	20,593	100%	18,926	100%	59,138	100%	187%

出典：日本学生支援機構提供資料「外国人留学生進路状況調査結果」各年より二子石氏作成

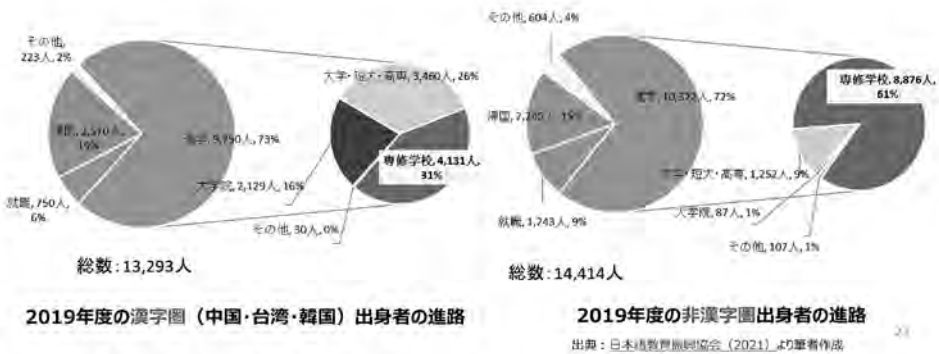
86% が専門学校に進学しているという結果になっています。

白石： それにしても、修了者の 8 割近くが進学しているということは、やはり日本の留学生受入れの入り口は日本語学校が重要な役割を担っていると言えるということでしょうか。

二子石： 間違いのないです。「30 万人計画」達成時において多くの留学生が法務省告示日本語教育機関を経由しており、その割合は増加傾向にあることが明らかになりました。

た。さらに、非漢字圏からの留学生の進学ニーズに応える形で、専門学校の日本語学校化（進学予備校化）という現象も生じており、日本国内での日本語教育及び進学予備教育の必要性が増してきたことも分析から見えてきました。「30 万人計画」を通し、渡日前入学許可の拡大を目的に様々な施策が講じられましたが、これまでの経緯を踏まえば、今後の留学生受入れ政策においては、法務省告示日本語教育機関（いわゆる日本語学校）を進学準備教育強化の観点

(図表8) 日本語教育機関・準備教育課程における漢字圏・非漢字圏進路



日本語教育振興協会（2021）『令和2年度 日本語教育機関実態調査
結果報告』<https://www.nissshinkyo.org/article/pdf/overview06.pdf> より二子石氏作成

から留学生受入れ政策（施策）の中心に据えるべきではないでしょうか。併せて、日本語教育機関からの就職者も増加傾向にある点を踏まえ、留学生の多様なニーズに応え得る日本語教育、進路指導が実施できる体制を構築すべきだと考えます。

白石： そのような日本語学校修了後、日本国内で就職するというルートもまだ少ない割合ですが出てきているようですが、この傾向は拡大すると思われますか。

二子石： これまで「10万人計画」、「30万人計画」などの施策の下で、日本語学校は高等教育機関（大学院・大学・専門学校）への進学希望者に対して、日本留学の入り口として日本語教育・進路指導を担当するという枠組みでした。しかしすでに、告示校の中では就職コースを独立して設けているところも出てきています。しかも就職コースには有名企業を目指すものから、在留資格「特定技能」への切り替えを目的と

するものまで幅広く存在しています。

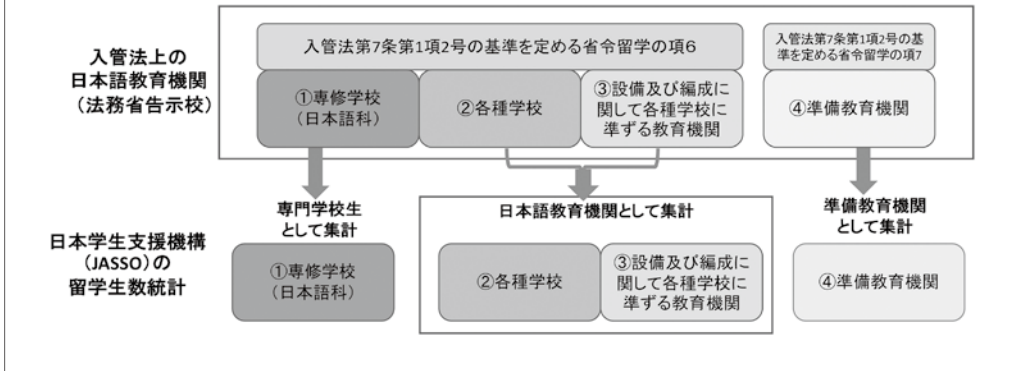
日本語学校の役割として就職のルートは今後もっと増えると思うというのが一つ。就職のルートも高度人材と言われる在留資格「技術・人文知識・国際業務」に切り替えるような人もいれば、特定技能の各現業分野に切り替えていくような人もいる、ということかなと思います。そのほか看護・介護もあるので、日本語学校の中で医療・福祉系の専門学校や組織との連携を目指すところも増えていくのではないかと思います。

太田： 日本語学校修了後の就職者は進路全体における割合こそ少ないですが、数で言うと修士からの国内就職数とほとんど変わりません。この点は注目すべきことです。

⑥ 日本語教育機関の定義について

二子石： 実は、日本語学校、日本語教

(図表9) 入管法上の定義と日本学生支援機構の統計上の分類の違い



出典：入管法及び日本学生支援機構の統計より二子石氏作成

育機関の議論をする際、そもそも、その定義があいまいであるという問題点があります。図表9を見て下さい。

JASSOのデータでは専修学校の日本語課程は、他の告示校と同じ法務省認可を受け、教育内容も同じでありながら、統計上は専門学校生としてカウントされています。本来、専門学校の日本語課程の学生も日本語教育機関の学生としてカウントされるべきだと思います。理由は、法務省告示日本語

教育機関は海外から学生をリクルートし、次の教育機関や企業へと送り出すという機能を持っており、それが大学院や大学、専門学校（日本語科以外）とは違うと考えるからです。ということで、私は専門学校の日本語課程も日本語教育機関の学生としてカウントされるべきであり、日本の入口として、ちゃんと学校数・学生数というものを見ないと、今の日本の留学生政策はきちんと見えないのではないかと思います。

4 ポストコロナの留学生受入れについて

白石： 今進行中の問題で、すぐに答えが出せるとは思いませんが、ポストコロナの留学生受入れの状況はどうなると想像されますか？その時に取られるべき政策はどのようなものになると思われますか。

二子石： 今回の調査から見えてきたことですが、まずは、①留学生数を見ると、

半数が専門学校、日本語学校に在籍していて、専門学校でも日本語教育が行われているケースがあるということ。そして、②専門学校卒の就職者数増加で、非漢字圏出身者の日本で働きたいというニーズと、人手不足という企業のニーズが合致してきているということ。この2つの傾

向はポストコロナにおいてより加速するのではないのでしょうか。とすると、これまでは留学生政策は大学院・大学中心の施策でしたが、専門学校、日本語学校に対してこそ手厚く支援するような施策を行うべきではないのでしょうか。たとえば、専門学校在籍者への奨学金の枠を増やす、日本語学校在籍者への奨学金枠を作るといったことです。私はどうしても日本語学校中心にものごとを考えてしまうのですが、日本語学校から就職するというルートでは、特定技能とか介護とか、「技・人・国」であっても比較的現場労働に近いところに就職する人たちの割合が増えていくのではないかと思います。そういった人たちの送り出し国がどこかと言うと、ベトナムやネパールなど日本とはまだ経済格差があるところで、彼／彼女たちを日本語学校在籍中にサポートできるよう

な体制を構築しなければいけないと思っています。そういう意味で、介護人材確保法などで専門学校入学前の日本語学校時代も、地方自治体などが学費補助を出すといった施策もありうるかと思います。

このように就職とセットで考える人が増えていくと考える中で、日本語学校自体を支援するような施策というのもポストコロナにおいては重要になるかと思います。看護・介護だけではなく他の業種でも、留学生にメリットのあるもので、結果として日本の企業にもメリットになるような方策が必要なのではないでしょうか。ただし留学生の半数は中国出身者で比較的富裕層だと思いますから、そこはまた別に高等教育機関に対する政策というのが重要になると思います。

白石： 本日は長時間にわたりお話を伺い有難うございました。

-
1. 学生支援の推進に資する調査研究事業（JASSO リサーチ）独立行政法人日本学生支援機構による、公募により採択した研究者等に依頼する形での調査研究事業を実施する制度。
<https://www.jasso.go.jp/about/statistics/jasso-research/index.html>
 2. WES Education in China (December 17, 2019) <https://wenr.wes.org/2019/12/education-in-china-3>
 3. 外国人留学生在籍状況調査（日本学生戦機構）
<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/index.html>
 4. 文部科学省国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議（第4回）資料「国立大学の学生定員管理の柔軟化について」https://www.mext.go.jp/content/20200528-mxt_hojinka-000007541_4.pdf
 5. 職業教育・キャリア教育財団（2019）『平成30年度文部科学省委託事業「専修学校グローバル化対策推進支援事業」専門学校留学生の戦略的受け入れ推進事業成果報告書：平成30年度』
https://study-japan-ptc.jp/download/pdf/h30_seika.pdf
 6. H23年7. 1「出入国管理及び難民認定法第七条第一項第二号の基準を定める省令」

新星学寮での生活

(第3回)

新星学寮はアジア学生文化協会の創設者である穂積五一先生が1932年に開設した至軒寮を戦後(1945年)改称したものです。以来日本とアジアの青年学生が自治的な共同生活を通じ、相互理解を深め友愛を培う場として維持されてきました。しかし老朽化が進んだため、2018年に耐震性・耐火性を備えた建物に建て直されました。建替えに当ってはOB・OG・関係者の皆様から多大なるご協力をいただき、2019年4月に新入寮生を集め新たなスタートを切りました。本コーナーではこの新星学寮の今をお伝えします。今回はタイ人寮生2人に寮での生活や日本留学のこと、タイ社会のお話についてうかがいました。



新星学寮は小さな実社会 ～タイ人寮生に聞く

- ・ジリヤシン ジャリヤーさん 政策研究大学院大学(博士課程)
- ・コンクローン トーン タットポーンさん 東京大学大学院工学系研究科(博士課程)

◆ 新星学寮に暮らしてみても

—— 新星学寮は一般の学生寮とは違うと思いますが、最初、どのような寮だと理解しましたか。

ジャリヤー 寮生のみんながお互いに文化交流をしながら生活をする場所だと思いました。母国の料理をお互いに作って食べたり旅行に出かけたりといった活動をしながら、交流を深めあって生活をする所という感じです。寮の歴史などについては入寮後に資料を読んで知りました。

タットポーン 伝統のある寮だと聞きましたがその歴史や寮のあり方については全然知りませんでした。前住んでいたタイ人の友達に、この寮は自治寮であり、寮会で寮内のルールをすべて自分たちで決めていくという話だけは聞いていました。

—— 実際に入寮してみているかがですか。

タットポーン 最初は「自治寮」という言葉に魅力を感じて寮に申込みました。今その一員となって、さらに寮長という立場でみんなをまとめていく役割をさせてもらい、色々な人と出会い、様々な出来事を経

験して、毎日新鮮な気持ちで寮生活を送っています。

ジャリヤー 面接の時は他の応募学生とディスカッションをしたり、発表をしたりしてとても楽しい雰囲気だったのですが、入寮と同時にコロナ禍になってしまい、みんなでやれることが少なくなってしまうています。面接の時に花見や花火見物などのアイディアが出たのですが、今のところ全て出来なくて残念です。

—— コロナ禍での生活についても寮生で話し合っているのですか。

タットボーン 寮規約に友の会[※]の助言を真摯に受け止める必要があるとの記載があるのですが、最終的には寮生全員で話し合い、皆が納得した形でコロナでの生活スタイル、方針を決めました。

ジャリヤー 去年夏の北海道旅行は実行することになったのですが、ちょうど札幌の感染者が増えている時で、寮生によっては学校から行かないように注意されていた人もいて、結局少数の人しか参加しませんでした。

タットボーン この寮はみんなの承認を得てイベントを開催するというルールになっています。しかし、曖昧なところも多く、何人集まれば実行するのか、どんな時は中止するべきか、というルール整備がはっきりと出来ていません。

—— 寮生の積極性や協調性という部分はどのように感じていますか。

タットボーン 今の寮生は協調性と積極性

の両方を持っていると思います。ただし、皆それぞれ勉強や仕事など、自分事情があるので、一人一人が参加しやすいように行事を工夫しなければなりません。つまり、正しいアプローチで話しかければ、みんな協力的で積極的に議論をしてくれるということです。学校が忙しい人には空いている時間を見つけて話しかけていますが、嫌な顔をする人はいません。ですから寮生の協調性がなくて困る感じたことはありません。OB、OGが考える寮の理想的な姿がどのようなものなのかはわかりませんが、今まで住んできた学生寮と比べると、みんな積極的に協力して交流しながら生活しています。特に寮会ではかなり熱く議論する人が多いです。

ジャリヤー 私も基本的にはタットさんと同じ意見です。去年コロナ禍になったばかりのころは旅行や食事会などに参加しなかった人もいたのですが、寮会で彼らから「自分にとっては健康が一番大切で、リスクは冒したくない」という話があって、他の人も理解し納得しました。話す機会は少なくても、お互いにしっかり意思の疎通はし合い、それぞれの考え方を尊重しながら生活していると感じています。

—— ほかに寮に入って発見したことや学んだことはありますか。

タットボーン 寮長というみなさんのまとめ役をさせてもらっていますが、今もジャリヤーさんが話した通り、みなそれぞれ違う意見を持っていて、それが極端に違うことも多々

※新星学寮友の会・・・新星学寮を応援するために主に寮のOB、OG、支援者で組織された組織。会独自の活動を行う他、現役寮生との交流や寮運営の相談役となっている。



★ジャリヤン ジャリヤー

タイ・バンコクの MAHIDOL WITTAYANUSORN 高校を卒業後、2009年にタイ政府奨学金プログラムで来日。東京日本語教育センター (JASSO) を経て 2011 年一橋大学経済学部に入學。同大学卒業後 2017 年イギリスの THE UNIVERSITY OF WARWICK 大学大学院経済学研究科入學。同大学院を卒業後、タイ財務省の財政政策研究所勤務。2019 年に日本政府奨学金プログラムで再来日。東京大学公共政策大学院の博士研究生を経て現在、政策研究大学院大学経済政策分析専攻 1 年生 (博士)

あり、口論になる場合もあります。しかし、それぞれが寮のことを一番考えている結果なので、寮長としていかにみんなの思いを受け止め、それぞれの意見を反映させた答えをどう導き出せるのが大事だと思います。時には頭がいっぱいいっぱいで大変なのですが、とてもいい経験だと感じています。

—— 例えばどのような時に意見の違いが出るのでしょうか。

ジャリヤー 最近の新入寮生の入寮選考時の話ですが、ある女子学生がいて、彼女は性格的には問題はなかったのですが、宗教

的な理由で食事の制限があったため、彼女を受け入れるかどうかで大きな意見の違いがありました。食事会で自分が作った料理を食べられない人がいるのはどうなのか、旅行でいつも彼女専用の料理を用意してもらうことは可能なのか、といった不安の声があがりました。その一方で国際交流の寮なのだから、様々な文化・宗教的背景の人がいて当然だという意見も出ました。結局、その時の寮長がそういった寮生の不安の声を彼女に伝えたのですが、彼女は大学でサークルに参加した際にもそういった問題があったということで、親とも相談して「辞退した方がいいかなあ」ということになり、寮会でもそれを受入れようということになりました。

タットポーン 多様性を重んじて様々な国籍の人を受け入れたいという人も多いのですが、文化の背景の違いで問題が起きたときにどういう対応をすればいいのかという、その答えが導き出せなくて受け入れを断念しました。寮生の大半が受け入れを反対している状況下で彼女を受け入れても結局彼女を苦しめるだけではないか、という結論になったんです。

—— スタッフが根回しをしてくれる一般の寮と違う自治寮ならではの難しさですね。結果は残念に感じますが、いかにみなさんが真剣に寮の運営を考えているのか、ということがわかるお話です。ではこの寮に必要なことについてはどう考えますか。

タットポーン この寮には明文化されたルールが必要です。暗黙の了解でやっていることが、時には人によってやり方が違っ

たりします。例えば、寮生から集金したお金の使い方や、些細なことですが、シャワー室の利用時間などその都度問題があったときに寮会で決められたことは寮の規則として明文化されていません。それでは新入寮生は戸惑います。そういったことを、ルールとして一つ一つ明文化していきたいと思っています。

ジャリヤー 新入寮生は全体的なルールが分からず、意識せずちょっとしたルール違反をしてしまう可能性がありますね。私にとって一番気になるのは、家族のような良い関係を守ることと、寮のメンバーのメンタルヘルスケアですが、知らずに違反をしてしまった時にいきなりルールを守るように注意をされてしまう恐れがあり、それを強権的に感じてしまう寮生もいるかもしれません。家庭のような環境を守ることが大事ですから、そうしたことが起らないように、新入生向けのオリエンテーションなどがあればいいのかなと思います。

タットポーン それから、僕自身はコロナ禍が終わったら、近所の方たちと交流できるような催しができたらと思っています。コロナ禍の間は交流が難しいので、まず寮内の体制をしっかり講じていきたいです。

◆ タイ政府の奨学生として日本に

——では日本留学のことについて教えてください。2人とも、最初はタイ政府の奨学生として来日されたんですね。

タットポーン はい。僕はタイで中学を卒業したタイ人を高校から海外に留学させ



★コンクロントーン タットポーン

タイ・トラナランルック校中学を卒業後、2007年にタイ政府奨学金プログラムで来日。ABK日本語学校を経て2009年東京学芸大学附属高校に入学。2012年東京大学理科一類に入学し、卒業後東京大学大学院工学系研究科に進学。現在同大学院4年生（博士）。趣味はポタリング（自転車＋散歩）、好きな食べ物はソフトクリーム

るプログラムで来ました。数年前からこの奨学生の数がどんどん減って、日本が最後の派遣先国でしたが、8年前にとうとうなくなり、派遣留学生は来なくなりました。いま日本にいるこのプログラムの奨学生は、僕と学部4年生の後輩たった一人だけです。

——なぜ日本を選んだのでしょうか。

タットポーン 留学先に日本を選んだのは、日本人の性格が好きだったからです。特に「空気を読む」という文化が僕は好きなんです。言葉には出さないけれど、いつも他人のことを考えて生活しているから日



寮の食事会の様子。左手前から3人目がジャリヤーさん

本人は空気が読めるんです。実はタイにいた頃は身勝手な行動の人が多くて色々大変な思いがありました。夜中大声を立てたりしても、タイでは「マイペンライ（問題ない、大丈夫、気にしない…）」という言葉を使って全部ごまかすんです。日本人は周りの人に迷惑かけていないかを自分の都合より先に考えると聞いていたので、日本に住んでみたいと思いました。

ジャリヤー 私も修士まではタイ政府の奨学生で、高校を卒業してから日本に来て大学に入りました。私の奨学金はアジアのどの国でも選べたのですが、日本を選んだのはタイ語と英語のほかに、もう一つの言語ができればいいなと思ったこと。それから、実は最初はシンガポールも検討したのですが、タイ政府の担当者に「シンガポールは優秀な大学と言われている所が少なくて競争率がすごく高いので、日本のほうが大学選びのストレスは少ないよ」とアドバイスされたんですね。それで日本に来ることを決めましたが、来てみたら予想以上に楽しかった。タイが好きな人も多くて、アルバ

イトでタイ語を教えていたのですが、タイ好きの人たちと異文化交流をしていると、どんどんタイの良さに気がついて、タイが恋しいという気持ちが強くなっていきました。

—— タットポーンさんは、大学の専攻はいつ頃決めたのですか？

タットポーン この奨学金プログラムに応募するタイミングで決めなければならなかったので、中学を卒業した頃です。将来タイに必

要であろう分野の人材を育成するために、自分が派遣されました。

—— 中学校卒業時点で大学の専攻を決めるというのは難しそうですが、今勉強をされていてどうですか？

タットポーン 先生は素晴らしい方ですし、研究も面白いのですが、自分にとって今の研究が本当にやりたいことなのかというと、自分でもよくわからないという感じです。そもそも、自分がこの分野に向いているかどうか時々疑問に思ったりします（笑）。

ジャリヤー 私も修士課程まではタイ政府の奨学生だったので、タットさんのように将来国のために仕事をするという点では同じですが、15-16歳の時に自分の専門を決めるというのは厳しいですね。

—— では日本の生活についてはどうでしょう。日本は細かいルールが多いので、タイに行くと開放されて快適だという日本人も多いですね。

タットポーン どうでしょう。一時的な滞

在と一生そこで暮らすこととは多少感覚が違うと思います。混沌とした社会、自由奔放な社会というのは、集団生活、団体行動をするのに適していません。つまり、国が方針を決めても、自分はこうしたいと思う人が勝手な行動をすれば国として前進できないという悪い面もあります。「電車で音を出して動画を見る」くらいいいじゃないかという周りを気にしない人が多く集まれば、そうした自分勝手な行動が社会へ大きな悪影響を与えることになるかもしれません。

ジャリヤー 私はゴミ分別のことなど注意しないといけなことが多くて、日本にきたばかりの頃はストレスに感じるがありました。でもそういったルールに慣れてくるとこちらのほうが過ごしやすい。もちろんタイのいいところはたくさんあるのですが、そうした文化や習慣の違いに対する戸惑いは海外留学では必ずあることです。そこは理解して受け入れていかないと留学生活は送れません。

—— 留学生が日本で生活する上で必要なもの、または日本社会が留学生に対してサポートすべきことはなんだと思いますか。

ジャリヤー 留学生の友人には日本語が出来ない人がけっこういるのですが、その場合、大切な情報がすぐに伝わらないという問題があります。例えばコロナや地震の情報がすぐに届かず、知らずに過ぎてしまうということも多くありますから、そういった大切な情報はすぐに目に入るようなところ、例えばテレビの速報テロップを英語でも流すといったことがあればいいのかなと思います。ただし、最近はいろいろな関連



タットポーンさん。高校生時代に所属していた弓道部で。自己の人格を磨いてくれた日本武道。内面の価値を高め留学生生活を深く豊かにしてくれました

機関がSNSを利用したり多言語のリーフレットを作ったりと工夫をされていて、かなり改善されてきていると感じています。

タットポーン 僕は語学のサポートだと思います。僕は日本に留学する以上、日本語の習得は必須だと思っています。英語で勉強できるコースも増えてきていますが、日本語でなければ日本人の友達と本音で語り合えません。日本の素晴らしい文化に関しても本質的な素晴らしさを理解できないと思います。日本で学位をとったことになりましたが、それでは日本への愛着も生まれにくいのではないのでしょうか。なので、もっと留学生が日本語教育を受けられる環境をつくるべきだと思います。ABKの頑張りどころですね（笑）。

ジャリヤー 私の大学院は少し特殊なところで、世界各地の公務員など政策作りに関わる人たちが集まり研究をしていますから、学内は完全に英語環境です。反対に新星学寮では日本語での生活ですから、個人的にはバランスがとれていて、すごくいいなあと思っています。

—— ジャリヤーさんは財務省に就職後、また日本に戻られたわけですね。

ジャリヤー 私は日本で学部を卒業後、イギリスで修士をとって財務省に入ったのですが、私の部所は優秀な人が多かったため、自分の能力もアップしたくて、絶対もう一度留学して博士をとりたいと思っていました。それで、入省から2年経った頃、日本政府の奨学生試験を受けるチャンスがあり、また日本に戻って来ることが出来ました。日本に戻ったのは、やはり安全で慣れ親しんだ環境であることや、以前から興味を持っていた大学院があったからです。

—— 財務省には元日本留学生の方もいますか。

ジャリヤー いますが、多くはありません。うちの一部の仕事は毎月現在の経済状況などをメディアの方々に発表することで、一度日本のメディア向けに日本語でタイの経済レポートを作ってみようと思ったのですが、チームに日本語が出来る人が少なく、止めてしまったということがありました。これからはもっと元日本留学生の力をアピールできるようにがんばりたいと思っています（笑）。

—— 期待しています。ところで、タイ人にとって日本人とのつき合いで難しく感じ

ることはありませんか。

ジャリヤー 日本人はタイ人や欧米人と比べてシャイなところがあって、親しくするのに少し壁があるのですが、いったんその壁を乗り越えて仲良くなると、本当にいい関係が築けます。

タットボーン たしかにジャリヤーさんが言うように、最初は距離の取り方がわからないことがあるかもしれませんが、話してみるとみんな優しいですし、悪意を持って接してくるような人が少ないといえますか、嫌なことをされることもなく、安心して暮らせる環境だと思います。

—— 留学先としてはいかがですか。

タットボーン 最近は世界的に見て日本の大学のランキングが下がってきて、気にする人もいるのですが、それは英語環境や外国人の学生・教員数などに起因しているからです。教育のレベルと質が下がったわけではありませんし、むしろとても優れていると思っています。日本の良さは日本語で学ぶことにあるので、日本に留学するつもりなら、まずは日本語を一生懸命勉強することです。初めから日本語を学ぶつもりがないのなら、欧米に行ったほうが学べることは多いと思います。

ジャリヤー 私も賛成です。ただ、日本語を自由に扱えるようになるまではすごく時間がかかりますから、その覚悟は必要ですね。私の場合、学部は日本語で、修士で英語に変わり、帰国後はタイ語で仕事をしたのですが、たまに言語で混乱することがあります。だから、将来日本に関わる仕事をするつもりがない人は英語圏を選ぶという

考え方もあると思います。でも留学先としての環境はお勧めです。女性の一人暮らしも安全ですし、日本社会からは学べることも多い。最近タイの若者には日本好きな人が増えていて、彼らは日本のことをよく知っているのですが、実際に住んでみると生活に慣れるのに苦労する人も多いようです。タイ人は大人になってもずっと家族と一緒にという人が多いので、初めての外国での一人暮らし、そしてタイとは違う日本の少し厳しい生活ルールに疲れてしまう人もいますね。最初はそこを乗り越えることが肝心だと思います。

◆ タイ社会への思い

—— コロナ禍になる前は学生によるデモの話題が、連日、日本でも報道されていましたが、デモ隊の訴えはタイの若者みんなが思っていることなのでしょうか。

タットポーン 個人差はありますが、若者は皆似たような思いを持っていると思っています。たとえば「今の社会に不満はあるけれど、良い暮らしができていますので現状維持でよい」という人がいる反面、「これは人権問題に関わるから絶対に許すべきではない。改革が必要だ」と思っている人もいます。バンコクなどの都市部ではデモに賛成の人が多いのですが、地方では今まで通りに過ごせばそれでいいと思っている人が多いようです。ただ、いま運動しているのは若い人たちなので、10年、20年経って、彼らがタイという国を動かしていく立場に



ジャリヤーさん。寮の旅行でイチゴ狩り体験

なれば、確実にタイの社会は変わると思います。10年前は、こうした大きな運動が起きること自体、誰も想像できませんでした。一人の政治家の発言にこれほどの、何十万人という人が賛同するということは、誰も予想できなかったことです。個人的見解ですが、タイで起きているデモの原因は、西洋的な人権の考え方の影響だと思います。SNSの発達によって、個人が尊重され、自由に発言できる。自分の意見を持っていいたいという“気付き”があったんです。タイには目上の人に逆らってはいけないという風習があり、目上の人が明らかに間違っているいても意見を言えません。階級社会もまだ根付いているので、上の階級には逆らえません。そうした背景もあり、学生たちは「立場や年齢に関係なく議論をして、より良い答えを共に導きましょう」と訴えているだけなのですが、それさえが許されないのがタイの実情です。

ジャリヤー タイでは以前にも、いくつかデモがあったのですが、当時のリーダーたちは政治家やビジネスに関係がある人など

で、一般人にとってはデモには彼らの利権絡みではないかというイメージがあったかもしれません。でも今回は普通の大学生がリーダーで、純粋に今の社会を変えなければという思いで声を上げていて、今回のデモに関心がある人が増えたのだらうと思います。

タットポーン 今回の運動の目的は、過去にあった“どちらが勝つか負けるか”という争いではなくて、根本的に社会構造を変えて、より良い社会を目指すことです。

—— 平和裏に解決への道を探って欲しいですね。話は変わりますが、日本に住んでいて恋しくなったり懐かしく感じたりするタイのものを教えてください。

ジャリヤー 困っている人がいるとずっと手を差し伸べてくれる、タイ人の優しさや親しみやすさは恋しいですね。日本人の真面目さとタイ人の親しみやすさの中間の性格の人が多ければ、もっとストレス無く生活できるのになと思います（笑）。

タットポーン 自分はかなり日本が長いので、帰省がいつも旅行に近いんです（笑）。なので、懐かしいというよりもタイへ旅行するという気持ちの方が強いんですね。ランという田舎町出身でもあって、タイの自然が好きです。海もあって山もあって滝もあって、みんな車で一時間以内のところにあります。本当に緑が多くて、いつも大自然のパワーをもらってから、東京での勉強の糧にしていました。

ジャリヤー タットさんはタイ料理は恋しくないですか？

タットポーン 時々自分で作って食べてい

ますよ。最近日本でもいろんな食材が手に入るようになったので、食べたくなったらいつでも食べられます。

—— 日本のお店のタイ料理はタイの味ではないという人が多いですね。

ジャリヤー 私もそう思います。

タットポーン タイで使っている材料がちょっと違うからです。例えばガパオライス（バジル炒めご飯）は日本でも有名ですが、使っているニンニクやガパオの産地によって味が多少違います。日本で使われている沖縄のガパオよりタイで育ったガパオのほうが香りが強いみたいです。でも、自分はそれに慣れてしまったのか、日本のガパオでも美味しく感じます。人間の舌って、やはり普段食べているものに影響されますね。だから、タイ人と日本人の味覚のセンスが違うかもしれません。実は今トンカツにはまっているのですが、肉のうま味を楽しみたくて塩だけをつけて食べています。でもタイ人にはその美味しさがわからない。こってりとしたソースがないと食べられないという人がほとんどです。

ジャリヤー “美味しい感”が違うんですね。日本人は肉や魚の素材そのもののうま味に美味しさを感じると思うのですが、タイ人は出された料理にいろいろな調味料をかけて、出来上がった自分好みの味に美味しさを感じるんです。

タットポーン タイにも日本の外食チェーン店がたくさん進出していますが、タイ独特のメニューや味付けもあって、それってタイ風日本料理だよ、とつつこみたくなるようなメニューも多いです。



コロナ禍になるずっと前のツーショット

ジャリヤー よく帰国している私に言わせると、5年くらい前までは全くその通りだったのですが、最近は日本の元々の味を知っていて、それが美味しいんだという若者が増えてきています。ただ私の親以上の世代になると、やはりラーメンを食べるときには大量の調味料を入れて、元が何ラーメンだったのか分からなくなってしまっている人もいますね（笑）。

—— 最後に、新星学寮では何を心得て将来に活かしたいと思いますか。

ジャリヤー 私の仕事は理論や数字を用いて経済政策を作ることですが、良い政策を作るためには単にデータを揃えるだけではなく、国内外の様々な場所で暮らす人々のこともよく理解しておく必要があります。そうした面で、この寮には様々な地域から個性を持った人が集まっていますから、

世の中にはこんな考え方、生活習慣の人がいるんだということを自然と学んでいくことが出来ます。また、私は職場で一時的に責任者として人事の仕事を任されたことがあったのですが、様々な意見を持つ人たちを管理し、仕事を割り振っていくという経験はとても難しいものでした。だから今ここで、みんなで意見を出し合い調整しながら送る生活は、すごく刺激的で勉強になっています。

タットボーン 僕もジャリヤーさん同様に卒業後はタイの公務員となり、政策の立案などに携わることをしたいです。その上で様々な人の意見を聞きまとめていくという新星学寮のやり方はとても貴重な経験だと思っています。今の時代はグローバル化が進んだ結果、国籍というものが曖昧になり、出身地で人を判断してはいけません。一人個人としてみて、その人の個性を尊重すべきです。そういった多様性のある社会では、国や地域という枠を取り払い、それぞれの考え方を尊重し合いながら暮らしやすい空間をつくっていかなければなりません。そういう意味で、様々な背景と経験を持った人たちが集まっているこの新星学寮は小さな社会そのものですから、たとえ寮生同士で意見の食い違いが大きくても逃げずに話し合い、お互いに成長しながら暮らしやすい生活空間を作っていきたいと思っています。この経験が卒業後仕事をしていく上で、きっと将来の糧になるはずですよ。

—— ぜひ新星学寮での経験や出会いを将来に繋げてもらえればと思います。ありがとうございました。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

水谷 光一

④ TNI 国際プログラムの高塚美穂さん：小学校からタイ留学！？

2018年に開始され現在4年目を迎えている英語で学ぶ TNI の国際プログラム (International Program) には、タイだけでなく各国からの学生が1学年50～60人在籍しているが、そのうち日本国籍を持っている学生も10名程いる。

この国際プログラムの第一期生は今年4年生になるのだが、3年から4年になる春 (3～6月) に企業でインターンシップをすることが卒業条件になっている。

今回、小学校5年生からタイで留学生活をしている同プログラム Global Business Management (GBM) コース4年生の高塚美穂^{たかつかみほ}さんに、タイでの勉強とインターンシップの感想を聞いて見た。

小学生でタイ留学！？

美穂さんは1999年埼玉県久喜市に中小企業を経営する日本人の父親とタイ人の母親の次女として生まれた。タイには母親と何



インターンシップ先の新聞社オフィスでインタビューに応じてくれた高塚美穂さん

度か来たことがあるものの、ごく普通の日本の小学生だった。父親の口癖は「かわいい子には旅をさせろ」だったと言うが、その言葉通り、3歳違いの姉は中学一年になった時、タイに留学することになった。

「お父さんとお母さんは仕事を引退したら、タイのチェンマイで生活をしたい。すでに一軒家を買ってあるので、お前たちが先に行ってタイの生活に慣れておきなさい」との命令があったとか。あまりに無謀な父

の計画（陰謀？）に啞然としたものの、留学に行く姉を見送り、自分も中学になったらタイに留学させられる運命だと悟った。

もっとも不思議とそれが嫌とは感じず、さらに先にタイに行った姉と毎日のようにインターネットを通じてビデオ通話をしていると、途中国際色豊かな同級生たちの姿が目に入るなど、「タイの留学生活」への興味はどんどん大きなものとなっていった。

そして姉がタイに旅立ってから数ヶ月後の小4の夏休み、美穂さんは姉の下に遊びに行く。そして、そこで同級生に囲まれ、なんの不自由もなく楽しそうに英語でコミュニケーションをとる姉の姿を見て、「自分もタイに留学すれば大きく成長できるかもしれない!」と思った。また、父親からも「考えてみれば小学校卒業まで待つ必要はない、来年4年生が終わったら、すぐタイに行きなさい」と言われ、喜んで承諾した。

そして、小4の終業式が終わるとすぐ母親とタイに飛び、1年前からタイで中学生生活を送っている姉が住む伯母（母の姉）の家に母親ともども同居することになった。その後タイの新学校が始まる直前の5月下旬に、父親がチェンマイ郊外の住宅地に購入した一軒家に引っ越した。それから半年は母親との生活が続いたが、以降は中2の姉と美穂さんだけの生活になった。伯母が時々様子を見に来てくれるとともに、近所の人たちも気にかけて見守ってくれた。母親も日タイを頻繁に往復して子供たちの面倒をみていたが、1年後には姉妹だけで自炊もできるようになり、タイでの留学・生活にも慣れて自信がついていった。



同級生と作成した GBM コースの紹介動画

<https://fb.watch/67XohbGeLG/>

チェンマイ留学生活

美穂さんは日本の小学校からチェンマイの小学校の英語コースに転入した。英語コースとはいえ、クラスに日本人は美穂さん1人だけ。英語もタイ語も挨拶程度しかできなかった美穂さんはクラスメートにからかわれることもあった。それでも友達が欲しかった美穂さんは、得意のお絵描きを披露したり、当時クラスで流行っていた折り紙をみんなと一緒にやったりするなど、クラスメートみなと仲良くなるまで一ヶ月もかからなかった。美穂さんは相当な努力家だったのだ。

小学校卒業後、チェンマイの MONFORT SECOUNDARY SCHOOL（中高一貫教育）に進学すると、チェンマイのインターナショナルスクールに通っていた姉も同じ学校に転校して来た。美穂さんは両親の負担も考えて年間の学費がおよそ100万円する

インターナショナルスクールに進学する気はもともとなかったという。

美穂さんが高校1年になると同時に、姉はチェンマイ大学(CMU)に進学した。自身も高2になって大学受験が近づき、いろいろな大学をリサーチした結果、姉が通うCMUの英語経済学コースにも合格したが、バンコクに出てみたい、一人暮らしもしてみたいという思いも強く持っていた。そのためタイの有名国立大学であるチュラーロンコーン大学の法学科や日本語科などの受験も考えたが、学費が意外と高額(12万バーツ; 約42万円/年)だったため、高校に学生募集部隊が来て大学の説明を受けた「泰日工業大学(TNI)」の奨学金付入試を受けることにした。そのため初めてバンコクを訪れた美穂さんだが、タイに高架鉄道が走っていることさえ知らなかったという。

その後来タイした母親と一緒にTNIを見学した際、スタッフから「せっかく来たのだから、今日、面接試験もしてしましましょう」と言われ、その柔軟さと緩さに驚くと同時に感動もした。そして合格して絶対にTNIの国際コース一期生になりたいと決意した。

大学では交友関係を広げなかった

無事試験に合格しTNIに入学した美穂さんは、高校時代常に仲良しグループだけで行動していたため、あまり広がりのある友人関係が築けなかったと感じていた。そこで、大学ではできるだけ多くの学生と付き合おうと、日本語をクラスの希望者みなに教えてあげたり、同じ高校出身で工学部

にいる友人を通して他学部の学生とも話したり、買い物や食事など、その時に応じて複数のグループと行動を共にするようにして、交友関係を広げていった。

そして3年生が終わる頃2021年3月から4月にかけて国際プログラムの学生が全員経験しなければならない企業でのインターンシップを迎えることになった。

タイ語・日本語の能力を使って仕事がしたいという美穂さんの希望を知っていたポーンアノン副学長から筆者に「日本のメディア(報道機関)でインターンシップができないか、聞いてあげなさい」という指令があり、いくつかの報道機関に受入れの依頼をすることになった。

こうして大手日系新聞2社で曜日を分けてインターンシップを行うことになった美穂さんにインタビューをおこなった。

—— インターンシップはいかがでしたか？ また、気が早ですが卒業後は？

「大学生活の3年間いろいろなアルバイトをしました。主に翻訳・通訳業でしたが、タイ語・日本語双方不安なところがあり、特に専門用語に困ることがありましたが、今回日本の新聞社特派員総局でインターンシップをさせていただいたことによって、タイでデモに参加している同世代の大学生へのインタビューやタイ語新聞の翻訳でずいぶん表現の幅が広がりました。初めはタイのことわざをうまく日本のことわざに翻訳することもできなかったのですが、まずタイ語の格言・翻訳を英語に訳しているサイトを



姉と過ごしたチャンマイの一軒家です

探し、気の利いた日本語にするため英語から意味を把握し日本語のことわざに落とし込みました。またデモに参加するタイの学生や専門家からは、今まで交友範囲があったタイ人からは聞かれなかった情熱的な意見も聞かれ、本当に勉強になりました。

これから4年生になるので、まだ確かなことはいえませんが、日本のメディアでインターンシップをしたこともあり、卒業後は日本に帰って就職を探してもいいかな、と思っています。TNIで勉強したマーケティングや起業計画などの知識をベースに言語を生かした仕事をするには日本のほうが適

しているのではないかと考えています。

———ところで、お父さんとの約束はどうなったのですか？

「そうなんです。お父さんはもうとくに引退してもいい歳なのですが、一向に仕事をやめて引退する気配はありません。姉はもう日本で就職してしまっていますし、私も来年卒業してしまうので、今のようにならぬ月に一度チエンマイに行って掃除をするなど家の管理もできません。タイで買った一軒家はどうするの！？、って言いたいです（笑）」。

水谷光一（みづたにこういち） 1962年神奈川県生まれ。1988年からタイ在住。1999～2004年ABKに勤務。現在 TNI Co-operative education and job placement center 所属。

日本留学成功の鍵は友達作り

エヴァン クリスディティヤワン

(Evan Krisdityawan) ～インドネシア

東洋大学 理工学部機械工学科 4 年生



ロボットを作ってみたいから
日本に行こう！

ロボットを作ってみたいと思ったのは高校生になった頃、メディアで SoftBank（ソフトバンク）クロボティクス）のペッパーくんを見て。もともと「ガンダム」など日本のロボットアニメが大好きだったので、本物の人型ロボットが動き、話すのを見て、「自分にも作れるかもしれない」と、心が大きく動かされました。だから留学先を考えた時、日本以外は考えられませんでした。

今は大学で社会貢献ができる人型ロボット、赤ちゃんくらいの大きさのものを作っています。具体的には日本人学生が英語の発音とリズムを身に付けるために役立つもので、大学院ではまた別のテーマになるかもしれませんが、基本的に人間の日常生活や能力の向上に役立つためのロボットを研究していきたいと思っています。

研究は大学 3 年生までの勉強

と違い、何もわからないところからスタートして、この部分を動かすためには何が足りないのか、といったことを自分で探し解決していくという作業です。それは教科書を読んで数式を覚えるよりずっと大変ですが、一つ一つ疑問を解決し、前に進んでいくのは楽しいですね。

日本留学で心配だったのは日本語とその背景にある日本文化の複雑さでした。同じ高校から日本に留学していた先輩がバイト先の話をするとときに「目上の人に対する言葉使いで苦労して

いる」ということをよく言っていたので、かなり心配しました。今も正しい敬語を使っているか自信はないのですが、少しずつ進歩しているかなあと考えています。

日本留学を決めてから留学までの 1 年弱は日本語の先生のプライベートレッスンを毎週 3 時間ほど受けました。そのおかげで、日本語学校のクラス分けテストでは良い成績をとってしまい、いきなり上のクラスに入ることになってしまいました。周りにはほとんど漢字圏からの生徒

初めて訪れた東洋大学 川越キャンパスで



でしたから、最初は授業について行くのが本当に大変でした。「わかりましたか？」という先生の声に「はい」とみんなが答える中で「ええっ!？」と周りを見回して驚いている自分がいるという感じです。だから先生はもちろん、クラスや寮の友達には勉強でも生活でもずいぶん助けてもらいました。そのおかげで半年後には日本語にも日本生活にも自信がついて、進学クラスに入ってから受験勉強に集中できました。

まずは友達をつくること

大学選んで重視したことは「ロボット工学が学べる」ということだけで、学校の場所や歴史などはほとんど気にしませんでした。ただし、日本に来てからあまりインドネシア人留学生に出会う機会がなかったので、インドネシア人学生のコミュニティーがある国立大学に行ければいいなあと思っていたのですが、残念ながら全滅でした（笑）。実は、入学して知ったのですが、今の東洋大の川越キャンパスにも一人だけインドネシア人の先輩がいて、それはうれしい驚きでした。ただ、彼女は今年卒業してしまったので、今、インドネシア人学生は私一人だけです。ぜひインドネシア人の理系留学生には東洋大学の理工学部を目

指して欲しいなあと思います（笑）。

大学に入ってまずしたことは友達作りです。友達がいればわからないことがあってもなんとかなる、というのは日本語学校で強く実感していましたから。

まず留学生の友達作りは「不安」という共通点があるので簡単です。お互い顔を見て「緊張しますね」「日本語心配ですね」と話しているとすぐに打ち解けます。そうして知り合った留学生同士誘い合い、最初の授業に参加しました。そして、たまたま隣に座った日本人に勇気を出して「留学生ですが日本語が不安なので、友達になってくれませんか？」と声を掛けたんです。すると「どこからきたの？」と向こうも興味を持って会話が弾むようになりました。

その後は同じアニメ好の人や苦手な科目が同じ人、英語を教えて欲しい人などと誘いあって一緒に勉強するなど、友達は増えていきましたから、学校で不安なこと、困ることはありませんでした。

実は入学後、しばらくしてロボット研究会というサークルに入ったのですが、週3回の活動はほとんど飲み会だったので、3カ月で辞めてしまいました。でもそこで先輩と知り合い、良い関係が



できて教科書のことなどで相談できるようになったので「入って良かった」思っています（笑）。

勉強は苦しみであり楽しみ

大学の理工系学部に入って思ったことは、「大学レベルの勉強というのはこんなに難しいのか」ということでした。一見文系っぽい基礎科目も理系の人のためにできていて、マクロとかミクロとか計算がたくさん取り入れられている。2年生になって専門的になってくると、いくら勉強しても分からないことばかりで、「大学生活は本気で勉強に集中しないと卒業できないぞ」と強く思いました。

一方で、大学生活での楽しいことも勉強です。友達の部屋に5人6人集まって、お互い助け合いながらする勉強のひとつときは楽しい時間でもあります。そし



静岡の港でポーズを決めて写真を撮ろうとしたら友達の写真が！

て彼らと登山やスキーに出かけたり僕のギター演奏に合わせてみんなで歌ったり…、大学で友達の存在はとても大きなものになっています。

だから日本留学を成功させるために大切なものは何かと聞かれたら、「日本語と友達」だと答えます。ダメな友達でも変な友達でもとりあえず声をかけて、まず1人作ること。そこから世界が広がります。

もちろん授業でわからないことがあれば、先生に聞きに行くことも大切です。ある授業で私は一番前に座るのですが、先生は私の表情を授業理解のバロメーターにしているようで、私がいけない顔をしていると、黙っていてももう一度説明をしてくれます。ここの先生方は優しいなあと思います。

もちろん友達作りも授業の理解も高い日本語力があることが前提です。だから日本語学校時代は何より日本語に夢中になってください。日本人は日本語以外の言語は苦手ですから、しっかり日本語をマスターしておかなければ日本人の友達はできま

せん。それから日本語学校では習わない言葉も大切です。「まじ（本当に?）」とか「ワンチャン（ワンチャンスの略；他に、もしかしたら等の意味）」などの、若者が頻繁に使う言葉を知っておくと、大学生活は、より順調に進むと思います（笑）。

ですからいま悩んだり困ったりしていることはないのですが、未だに慣れないのはやはり敬語の使い方、メールの書き方です。今大学でティーチングアシスタントのアルバイトをしていて、学生の疑問を先生にメールで報告することがあるのですが、どう書けば適切なのか、失礼のないメールになるのか、いつもいつも本当に悩みます。今のところ日本で就職するときの一番の不安はこれですね。

ずっと日本で暮らしたい

来年の大学卒業後は修士課程に進学して、もっと研究に集中したいと思っています。そして卒業したら、日本でロボット開発に関わる仕事に就きたい。目標は僕に夢を与えてくれたあの

会社なのですが、それがダメでもとにかく日本でロボット関連の仕事がしたいと思っています。

そのあとはお嫁さん探しかな。いま恋人はいないのですが、気になる日本人女性が身近にいますから、いっしょにインドネシア料理を食べに行きたいなあという計画を練っています（笑）。

とにかく私は日本が好きなので、ずっと日本で暮らしたい。冬の寒さや雪景色には母国では感じることのなかった清々しさがあったて好きですし、何より日本での生活には安心感があります。一度、鞆を駅に置き忘れて慌てて戻ったことがあったのですが、鞆はまだそこにありました。インドネシアなら見つけた人が「これ誰のですかー」と聞いて、持ち主がいなければそのまま持ち去ってしまいます。

もちろん、本場の辛いインドネシア料理が恋しくなる時はありますし、家族が何と言うかもわかりません。でも、私の伯母はオランダに住んでいます。もう10年間、一度もインドネシアには戻っていません。その代わりに彼女は自分の母親である私のお婆さんと毎週ビデオコールで話していて、お互いにそれで大丈夫みたいです。だから私の場合、2年に一度帰国すれば、それよりもずっとマシですから、それでいいんじゃないかなと思っています（笑）。

奨学金情報

＜知友会通信＞

奨学金情報は Japan Study Support (JPSS) web サイトで検索いただけます。

■ 公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団 私費留学奨学生 募集要項 (秋募集)

対象：ASEAN 諸国および南西アジアから日本の大学に留学している学生で、当財団の条件を満たす者を対象とします。募集要項や応募方法については当財団のホームページをご覧ください。

給付金額：(学部学生) 月額 15 万円、(大学院生) 月額 18 万円 (他に授業料補助制度、学会出席補助金制度あり)

給付期間：① 2021 年 10 月から 2023 年 9 月までの 2 年間 ② 2022 年 4 月から

2024 年 3 月までの 2 年間 (ただし、採用時の課程修了までの標準修業年限とする。)

募集人数：約 15 名

主催および問合せ先：

〒108-0023 東京都港区芝浦 3 丁目 1 番 1 号 田町ステーションタワー N

公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団事務局

☎ 03-6435-3388

E-Mail sisf@sato-global.com

URL <http://www.sisf.or.jp>

INFORMATION

第4回「教職員のための外国人留学生就職支援研修会」のご案内

「外国人留学生の就職」に様々な立場で関わる学校関係者が集まり、最新の就職支援の在り方について学び合う研修会です。ゲストスピーカーとして、外国人社員(元留学生)を実際に雇用している企業の経営者や人事ご担当者の方々にも登壇いただきます。今年はコロナ感染防止のためオンライン(Zoom 使用)で行います。

コロナ禍で就職支援がやりにくい、留学生の就活の動きが見えない、あのビザはあれからどうなった?、企業の採用意欲はコロナ禍で下がっているのか?など、知りたいこと・聞きたいこと・相談したいことを少しでも解消できる場にしていきます。大学・専門学校・日本語学校等で、実際に留学生の就職支援・指導を行っている教職員の方々、これから行いたいと考えている教職員の方々、ぜひご参加ください。

【日時】2021年7月10日(土) 14:00～17:00 (受付 13:45～)

【使用ツール】Zoom ※Zoom アカウントがなくても参加できます。

【参加対象】外国人留学生の就職支援・指導に関わる教職員、関心がある教職員

【プログラム】コロナ禍における外国人留学生の就職活動状況と、就労ビザの最新ニュース、パネルディスカッション(採用事例紹介)*日本企業における、外国人社員(元留学生)の活

躍状況と課題点等、参加者によるクロストークセッション

【詳細・参加申し込み】 <https://kenshuukai.jimdofree.com/> (参加費無料)

【申込締切り】 7月8日(木) 昼12時

【主催・お問合せ】「留学生就職支援研修会事務局」株式会社 ASIA Link 内

担当：井上、相馬 TEL. 042-312-1074

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2021年1月

賛助会員

(1口)

佃 吉一 文京区

正会員

(1口)

池野 朋彦／晶子 横浜市
鈴木 秀明 豊橋市
清水 国夫 中郡
新田 宜子 西東京市
山田 守一 港区
小原 正敏 土浦市
堀 香奈美 横浜市
近藤 玲子 秩父市
井上 駿 さいたま市
外山 経子 八王子市
田井 亮吉 神戸市
石渡 荘介 足立区
赤松 茂利 小田原市
川崎 依邦 大阪市
古川 恵世 我孫子市
中島 正喜 川崎市
田中 武雄／多美子 水戸市
堀 幸夫 杉並区
瀬尾 兼秀 北区
林 登居／ひさ子 八千代市
川口 善行 大田区
安藤 哲生 国分寺市
金野 隆光 柏市
倉内 憲孝 池田市
大益 牧雄 京丹後市
松岡 弘 相模原市

北星学園大学

札幌市

ご寄附

酒井 杏郎 渋谷区
山口 憲明 日野市
姜 英園 横浜市
新田 宜子 西東京市
古川 恵世 我孫子市
松崎 松平 世田谷区
西嶋 勝彦 千代田区
白石 勝己 千葉市
宮崎 悦子 金沢市

2021年2月

正会員

(1口)

李 景珉 世田谷区
郭 南燕 奈良市
山田 裕子 三鷹市
徐 世傑 千代田区
中村 尚司 京都市
田川 明子 世田谷区
中原 和夫 那覇市
岩佐 佳英 文京区

ご寄附

山崎 光郎 横浜市
中原 和夫 那覇市
栗原 静子 気仙沼市

2021年3月

賛助会員

雅留宮 澄子 野田市

正会員

(2口)

清水 泰代 高崎市
林 均 横浜市

(1口)

高橋 雄造 杉並区
石渡 真紀 帯広市
田井 良知 吉川市
真弓 忠 渋谷区
白石 勝己 千葉市
石川 清子 渋谷区
北 マツ 印旛郡
濱田 修 松原市
木村 博／劉 彩品 川越市
駒場 一成 大田区
久保 哲也 北区
脇 英親 文京区
菊地 絵里奈 葛飾区
坂詰 貴司 船橋市
赤星 裕 船橋市
大野 大平 北区
関川 弘司／郁子 千葉市
田中 利恵子 東村山市
東京都市大学 横浜市

ご寄附

河合 秀高 横浜市
田井 満里 北区
白石 勝己 千葉市
大谷 里恵子 藤岡市
山口 憲明 日野市
田中 利恵子 東村山

皆様の温かいご協力に
感謝申し上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的相和と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間2千円（十税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税をご負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

巻末言

- 先輩寮友や支援者の寄付を得て、「新星学寮」は2018年に立て直され、翌2019年（平成元年）4月から寮生が入寮した。名実ともに新しい星（寮生）たちによる寮生活が再開し今年で2年が経過した。寮の運営方針、つまり自治寮の在り方については、建て替え計画がスタートしたときから先輩寮友達により喧々諤々の議論が交わされてきた。
- 建て替え会議はシニア80代から若手30代まで、元留学生も何人かいて、長い歴史の中でそれぞれが過ごした寮時代をイメージしながら話しをするので、ちょうど象の鼻、足、尻尾の形状を主張するような議論をしていたのかもしれない。しかし、一番底流のところで「寮生自らが自主的に運営する寮」というコンセプトは全員一致していたと断言できる。
- 現在は留学生の受け入れ拡大に伴い、いろいろな大学で国際学生寮が設置され、多くの寮は「寮生による自主的交流活動」を標榜している。しかし、新星学寮のように、寮の生活ルール、備品・消耗品の管理、寮費の金額、会計までを寮生自らが行うという寮は他にはないだろう。今の寮生は（昔の寮生とは違い!）大変まじめで、寮の意義や歴史も理解し話し合いながら共同生活を維持していることは、本号の留学生インタビューを読めばご理解いただければよい。
- その寮生による寮誌「のろし」復活版と、寮友・協力者で作る「新星学寮友の会」会報の合本が出来上がった。「のろし」は今風フォトブックで寮生活、交流活動がまとめられている。「新星学寮友の会」会報は、それぞれの時代を背景として、自分の青春時代と寮とのかかわりが深く豊かに語られている。まだ残部があるので、ご興味ある方にはお送りします。ただし「新星学寮友の会」の会員になる、という条件付き。（白）

アジアの友 2021年4・6月号

2021年6月20日発行（通刊第546号）
年間購読（送料共）2,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 白石勝己
編集 アジアの友編集部
発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13（☎113-8642）
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)
published by THE ASIANSTUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599
Email：tomo@abk.or.jp
Home Page：http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話にてお願いいたします。



学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6912-0756

FAX +81-3-6912-0757

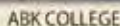
U R L <http://abk.ac.jp>

E-mail info@abk.ac.jp



- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLEGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会が寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）もあり各種協力を行います。



ABK COLLEGE (学校法人ABK学園ABK学園日本語学校)			
東京都港区日本橋区(大塚校・専門学校・就職・文化体験等)			
	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	4月入学 2年コース
授業時間	880時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円		
授業料 (施設・教材費含む)	620,000円	930,000円	1,240,000円
姉妹校 ABK日本語学校(公益財団法人アジア学生文化協会) 文部科学省指定大学進学準備教育課程			
	4月入学 1年コース	10月入学 1.5年コース	
授業時間	1,085時間	1,586時間	
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円(大学進学日本語課程)	95,000円(大学進学準備課程)	
授業料 (施設・教材費含む)	720,000円	1,080,000円	

所在地 〒113-0640 東京都文京区本郷2-3-15-15
 ☎ +81-3-3942-1171 FAX +81-3942-1501
 E-MAIL info@abk.ac.jp
 E-MAIL info@abk.ac.jp